

てしかが



「おいしいお餅になぁ〜れ！」

12月15日に行われた、摩周丘幼稚園(鈴木幸栄園長)の餅つきでの1コマです。園児は、お手伝いに来てくれたお父さんの餅つきを応援したほか、お父さんやお母さんと一緒に代わる代わる餅つき。きなこ餅やお雑煮にいただきました。

主な内容

- 町長・議長・教育長 年頭あいさつ……②
- 酉年のみんなが頑張ること……④
- 平成27年度決算報告……⑥
- 釧路・根室広域地方税滞納整理機構……⑨
- 年末年始閉庁・休館のお知らせ……⑩
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……⑭

てしかが歴史写真館 189



日の出とピンク色に染まる霧氷(1月)摩周湖第1展望台

摩周外輪山で見られる霧氷

— 阿寒摩周国立公園名称変更へ向けて —

2017年、阿寒摩周国立公園へ名称変更となる予定なので、現在の摩周湖が後世に語り継がれるよう、さまざまな視点から1年間連載していきます。

厳冬期の摩周では、昼間雪が降り続け、夜の間に降りやむ天気予報になっていると、素晴らしい風景に出会えることがあります。朝日に染まる霧氷です。標高600メートル前後の外輪山が雪雲に覆われていると、風で流された霧粒が冷えた木々に触れて凍り、霧氷は成長していきます。快晴の中、摩周で朝日と霧氷が見られるということは、木々が風雪に耐え抜いた姿なのです。

その姿を見るために、降雪後の日の出前、夜空で星がまだ瞬くマイナス15度の静寂の中、摩周の展望台で朝日が昇ってくるのを待ちます。東の空が徐々に明るくなり、周囲の景色が見えてくると、木々に霧氷が着いているのを確認できます。外輪山の南寄りから冬の太陽が顔を出すと、辺りの雪原が赤く色づき始めます。すると、樹幹から枝先までびっしりと霧氷が着いた木々が鮮やかにピンク色に染まっていきます。まるでその場のすべてが太陽の暖かさに歓喜しているかのように感じ、私も寒さを忘れて、一瞬一瞬の風景に見入ります。

太陽が高くなるにつれて、凍えるような寒さも緩み始めると、霧氷も散り始めます。朝の幻と言ってもいいほどに、昼の光に変わるころには消えて、いつもの摩周の景色へと戻っていきます。

これからの季節、釧路川沿いや川湯温泉など街中でも霧氷を見ることはできますが、摩周外輪山では、一段と自然の美しさと厳しさに出会うことができるので、ぜひ、町民の皆さんにも見ていただき、観光客の方にも伝えていただけたらと思います。

てしかが郷土研究会(片瀬)